

會 報

令和7年6月21日 発行

第 83 号

関東地区整形外科勤務医会

発行者：会 長 大江 隆史

発行所：事務局 新井 嘉容

〒332-8558 埼玉県川口市西川口5-11-5

済生会川口総合病院 整形外科

関東地区整形外科勤務医会

電 話 0570-08-1551

FAX 048-256-5703

病院医療と言う産業に日本の他の産業並みの採算性を

NTT東日本関東病院 院長

大江 隆史

今冬は雪が豊富であったが、さすがに5月の連休でスキー場を閉じるところが多いようである。私のスキーシーズンは3月末と決めており、3月23日の奥志賀高原で終了とした。前回予告したオールシーズンタイヤの感想をお知らせしたい。ちなみに、使用した場面は12月30日の志賀高原、1月5日の川場、2月1日の菅平、3月8日の白馬五竜と最終3月23日の奥志賀高原である。新雪、圧雪、ザラメ、凍結気味の様々な場面で、4WDのステーションワゴンに装着した。今冬の東京は路面が覆われるほどの降雪はなかったので、都心では冬用タイヤは全く不要であった。使用しての感想は、たまに降雪地帯に行く程度なら、オールシーズンタイヤで必要十分であった。志賀高原からの夕方5時過ぎの帰路、下り路面が凍結気味の場面ではブレーキをかけるのは直線路にすることに留意したが、これはスタッドレスタイヤでも大差なかったのではないと思う。2月23日の東日本手外科学会後のティネススキー場からの夕方5時過ぎの下り路面では、スタッドレスタイヤを履いた地元民も、私も時速10km以下でそろそろと運転していた。ちなみに乾燥した高速道路でも夏用タイヤに遜色はない。

さて、2024年度の決算は多くの病院で非常に厳しいものとなったとの報告が多い。当院を含め、10年前、5年前と比べると、増収となっている病院でも減益となっているようである。（次頁へ続く）

目次

1. 病院医療と言う産業に日本の他の産業並みの採算性を…………… 大江 隆史 …… 1
2. 壊死性軟部組織感染症を見逃さないために知っておくべきこと…………… 松坂 俊 …… 2
3. 40年にわたる骨粗鬆症治療の組織学的アルゴリズム…………… 田中 伸哉 …… 3
4. 令和6年度関東地区整形外科勤務医会 幹事・常任幹事会議事録（令和6年12月14日）… 5
5. 令和6年度関東地区整形外科勤務医会 常任幹事会議事録（令和7年3月17日）…………… 9
6. 事務局から …………… 12
7. お知らせ（第80回 日整会認定教育研修会）…………… 13
8. 入会申し込み書…………… 14

最近10年間で5回の診療報酬改定が行われた。引き上げ幅は2016年0・49%、2018年0.55%、2020年0.55%、2022年0.43%、2024年0.88%であったので、10年間の上昇率を複利で計算しても、2.9%に過ぎない。一方で、この10年間の消費者物価の上昇率は10.5%でその大部分が2022年からの3年間で生じている。また賃金の上昇率は会社の規模や形態に依存するが、日本の民間企業の平均で9.8%である。ちなみに当院はN T T 東日本の一組織なので、10年間で平均賃金が25%！上昇している。2015年ころ全国の黒字病院の平均稼働率は84%くらいであったので、経営の視点からは、それ以上を目指しましょうとなっていた。私も病院長になった2021年に85%を目指そうと提言している。それが2025年時点で試算すると95%！を超える。

一方で2015年からの10年間で病院に入院した患者数は10%減少している。収支が均衡するのに必要な稼働率が10%上昇しているのに、入院患者数は10%減少しているのでは、患者さんが足りない！となる。全国で病院の統廃合が必要になっている訳である。材料費や人件費の上昇が診療報酬の上昇を上回っていて、政府が医療費の総額を上げないとすると、抜本的な変革が必要ではないかと強く思う。休日、祝日、ゴールデンウィーク、年末年始を含めて稼働率が95%を維持しないと成り立っていないのでは、他の産業と格差が有りすぎる。医消費の総額を上げられないとすると、病床利用料、病床で生活するための光熱費を介護保険と同様に患者さんに負担してもらうのはどうか、の議論が始まっている。成り行きに注目したい。

壊死性軟部組織感染症を見逃さないために知っておくべきこと ～症例から学ぶ壊死性軟部組織感染症のA to Z～

飯塚病院 連携医療・緩和ケア療科 診療部長

松坂 俊

本講演では、壊死性軟部組織感染症の早期診断と治療介入の重要性について、複数の症例を提示しながら多角的に検証しました。見た目だけでは皮膚軟部組織感染症を正確に判断することは難しく、壊死性筋膜炎を代表とする壊死性軟部組織感染症も、皮膚表面の発赤や腫脹といった一見軽微な症状から始まるため、初期段階で見逃されるリスクが非常に高い病態です。早期に疑いを持つためには、特にFinger testによる組織の剥離容易性が診断のカギとなりますが、診断スコアで有名なLRINECスコアは感度が高くなく、Finger testも侵襲性が高い検査であるため、重症例の早期発見は依然として難しいのが現状です。

初診時の患者評価においては、特に糖尿病や悪性腫瘍などの基礎疾患を有する患者さんで、医師自身の直感や経験に基づいた「見た目と実態の乖離」に着目する必要がある点を強調しました。たとえば、局所の軽微な発赤や腫脹が一見軽症に見えても、実際には痛みの強さや患部の硬さ、全身状態や採血結果の悪さといった臨床所見から、急速な感染進行の可能性を示唆するサインを見逃さないことが重要です。ただし、A群溶連菌については約半分が基礎疾患なしで発症することに注意が必要です。このような現場での知識、診察技術や判断力の向上が、早期治療の決断に直結し、命に関わる敗血症や多臓器不全への進行を防ぐための重要です。講演では、画像診断についても言及しました。現状、CTやMRIといった検査は頻繁に行われていますが、これらはあくまで補助的な手段に過ぎず、初期診断において除外検査として頼ることは基本的にはできないとお伝えしました。画像検査は、診断後の感染部位の状況や範囲の把握に一助とするものであり、過度に依存せず、臨床所見や検査データ、

患者の経過観察を重視する診断姿勢の必要性が症例を通して示唆されています。

また、内科医と外科医との緊密な連携の下で、初診時の迅速な評価からその後の経過観察、状態の再評価、さらには患者およびその家族への十分な情報提供と再受診指導の徹底が、当疾患を診療する可能性がある医師には不可欠な要素であることを、各症例を通して強調しました。実際、見た目や直感に頼って判断してしまうことが多く、経験の少ない医師には伝わりにくい部分もありますが、見落としによる訴訟例も散見される現状から、見た目と実際の病態との乖離を踏まえ、症状の急激な変化に気付くための教育的アプローチや現場での迅速な判断力の育成が、今後の診療の質向上に大いに寄与するものと考えられます。壊死性軟部組織感染症という急性かつ重篤な状態に対して、医療従事者が早期に疑いを持ち、患者さんへ適切な情報提供を行い、最適なタイミングで診断・治療介入を実施することの重要性を強調させていただきました。

40年にわたる骨粗鬆症治療の組織学的アルゴリズム

医療法人社団全仁会 東都春日部病院整形外科

田中 伸哉

はじめに

骨は陸上において、ミネラル恒常性の維持、形態の維持、臓器の保護、幹細胞のホーミングの場としての役割を担い、骨リモデリングによって司られている。したがって、骨リモデリングはミネラルの恒常性と重力環境への適応に必須のシステムといえる。

しかし、生殖年齢の末期に近づくとも骨吸収が骨形成を上回り、リモデリング毎に骨量が減少する。やがて、骨量や骨構造を維持できなくなり、骨粗鬆症の状態に陥る。骨粗鬆症は生殖年齢を過ぎてなお長く生き続けるヒトの宿命といえる。

1. 陸上生活における副甲状腺と骨リモデリング

水中では身体に均等に重力がかかり、体に接する海水にはミネラルが豊富に含まれている。陸棲動物は、水中という恵まれた住環境を捨て、骨と副甲状腺を発達させた。血中Ca濃度が低下すれば、副甲状腺ホルモン（PTH）を介した骨吸収の亢進によってCaが放出されて生命が維持され、重力環境が変化すれば、リモデリングが刺激され骨折が防止される。アフリカツメガエルは、変態とともに副甲状腺の原器といわれる第3、第4鰓弓を肥大化させて陸上生活に適応する

2. PTHの持続的な上昇と間歇的な上昇

低Ca血症状態では、PTHの分泌が亢進し、血中Caの低下が回避されて生命が守られるが、破骨細胞にはPTHの受容体はなく前骨芽細胞の分泌するRANKL（receptor activator of NF κ -b）を介して分化する。つまり、骨からのCaの放出は、PTHにより前骨芽細胞が骨吸収部位に誘導されることが前提となる。PTHは前骨芽細胞の誘導により、破骨細胞の分化を促進するが、前骨芽細胞の分化も抑制し類骨のミネラル化によるCaの取り込みを防止する。Isogaiらは、テリパラチドにより骨芽細胞の分化が抑制されることを報告している。血中PTHの低下とともに、前骨芽細胞は分化しミネラル化が開始される。

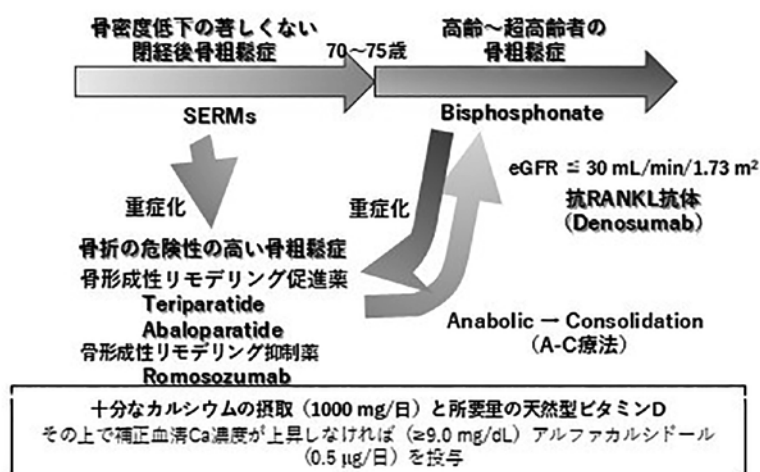
3. リモデリングから考える骨粗鬆症の病態と治療

リモデリングは破骨細胞と骨芽細胞系細胞のクロストークで行われている。骨吸収を強く抑制しリモデリングを制御すると骨量は維持されるが、重力環境への適応という本来の目的が犠牲になる。病態を理解した治療が必要になる。周閉経期から70歳台前半までは、骨吸収と骨形成の差は大きくないが、エストロゲンの低下によりリモデリング速度が上昇している。リモデリング速度の上昇が急激な骨密度の低下の原因であるから、SERM（選択的エストロゲン受容体作動薬）によるリモデリング速度

の調整が理にかなっている。しかし、さらに高齢になると、加齢の影響により形成が著明に低下するので、骨量の維持をするには、リモデリングを制御できるビスホスホネートが推奨される。

「骨折の危険性の高い骨粗鬆症」に対しては、骨吸収抑制薬に先行して骨同化作用の高いPTH1型受容体（R）作動薬（テリパラチド、アバロパラチド）、もしくは抗スクレロシン抗体（ロモソズマブ）の使用が推奨されるが、骨量増加作用はロモソズマブが優れるものの、骨質改善効果は骨形成性リモデリング促進薬であるPTH1R作動薬が優れる。後治療は、ビスホスホネート、デノスマブでリモデリングを制御し形成された骨を維持する（Anabolic-Consolidation: AC療法）。

リモデリングは身体ミネラル代謝をコントロールする重要な臓器であり、骨粗鬆症治療はミネラル代謝を変動させる。1日あたり500mg程度のカルシウムと200IU以上の天然型ビタミンDは必須である。



医療機器販売会社として 1977年創



望星サイエンス株式会社

BOHSEI SCIENCE CO.,LTD

医療への貢献と、

より良いアメニティ空間の

創成に努めてまいります。

オフィシャルホームページ <http://www.bousei.co.jp/>

令和6年度関東地区整形外科

勤務医会 幹事・常任幹事会

議事録

日時：2024年12月14日（土曜日） 14:30～15:30
場所：旭化成ファーマ（株） 医薬東京支店 会議室
（新宿アイランドウイング 11 階）

出席者：

浅野 聡、新井 嘉容、石橋 英明、伊室 貴、
上杉 雅文、浦部 忠久、江畑 功、大江 隆史、
桂川 陽三、鎌田 修博、亀山 真、楠瀬 浩一、
坂根 正孝、進藤 重雄、田尻 康人、辰巳 徹志、
戸野塚 久紘、富田 善雅、新関 祐美、林 淳慈、
原 慶宏、東川 晶郎、平泉 裕、福田 健太郎、
眞塩 清、松原 正明、三上 容司、三原 久範、
村松 俊樹、山縣 正庸、吉田 英彰、若林 良明
(32 名：五十音順、敬称略)

【審議事項】

1 次々々回 常任幹事会の日程

・日程候補日：

2025 年 10 月 20 日（月曜日）19:00～20:00 または
2025 年 10 月 27 日（月曜日）19:00～20:00

・形式：WEB（Zoom）開催

→事務局より、参加者の予定に支障がないことを確認
の上、2025 年 10 月 20 日（月）開催を提案

→参加者の拍手をもって承認

2 次々々々回 幹事・常任幹事会、教育研修会（第 81 回）の日程、場所に関して

・日程候補日：2025 年 12 月 20 日（土曜日）
14:30～18:00

・会場：旭化成ファーマ（株） 医薬東京支店 会議室
→教育研修講演の演者の都合により調整

→参加者の拍手をもって承認

3 新常任幹事の推薦

→該当者なし

4 新幹事の推薦

→該当者なし

5 その他

・本日より日整会教育研修講演の単位申請を 2 次元コードで行う

【報告事項】

1 理事会報告

大江先生より報告

・令和 6 年度第 2 回ジョイクル関節注 30 mg 検討会
(9/10)

神藤佳孝理事から、令和 6 年度第 2 回ジョイクル関節注 30 mg 検討会について報告された。販売会社は販売中止を検討するが、日整会としては販売継続を希望。

・令和 6 年度第 4 回モルヒネ髄注ポンプに関する 3 学会合同WG (9/11)

神藤佳孝理事から、令和 6 年度第 4 回モルヒネ髄注ポンプに関する 3 学会合同WGについて報告された。髄注用ポンプの使用に適したモルヒネが、手に入らない。現状、製造できていない状況。

・大江隆史理事から、日整会への Inochi WAKAZO Project 2024 協賛依頼について報告された。理事会で意見を交わした結果、150 万円のシルバー協賛を承諾した。

＊Inochi WAKAZO Project について

全国 4 エリアから選抜された 6 チームがプレゼンテーションを行い、審査の結果、徳島県の高校生 2 名のチーム「ぽつんと四国。」が全会一致で 1 位となった。保健体育のテキストでロコモを知ったことをきっかけに、ロコモは若い時からの対策が重要であるという課題分析のもと、ロコモ教育を学習指導要領に反映することを目指すとともに、教育後もロコモ対策の継続を促すため、既存の健康管理アプリ「テクとく」へのロコモ関連の追加機能実装を進めている。既に徳島県知事にも直接働きかけ、実装にかかる予算の具体的な検討段階にある。

・日整会 100 年プロジェクト推進会議

・全国一斉市民公開講座の実施について

議長から、第 1 回全国一斉市民公開講座 WG について報告。2026 年 11 月 28 日、又は 29 日に全国 47 都道府県で一斉に全国市民講座を開催

・領域横断的の合同シンポジウムの進捗

日本循環器病学会及び日本糖尿病学会との進捗状況について報告

・SICOT 2024 報告及び SICOT 2026 準備状況

京都で開催。日程は、2026年9月28日～10月1日、会長は東京大学田中栄先生。

2 ホームページ・会報

伊室先生より報告

- ・会報第82号を発行
- ・HPを一部変更

3 第165回ロコモ チャレンジ!推進協議会 (9/25)

大江先生より報告

- ・Inochi WAKAZO Project との協賛
協賛プラン「ゴールド」（協賛価格300万円、フォーラムCM30秒放映、A4サイズの広告）を日整会と協議会で折半して協賛を進めることを提案したが、2つの団体であることから、両者ともシルバー協賛（価格150万円）として、CMや広告は共同でゴールドと同等の枠で作成した。
- ・2025年3月2日（日）ロコモサミット開催
ロコモチャレンジ推進協議会の中には、本会以外に「がんロコモ」、「栄養」、「勤労者ロコモ」、「子供とスポーツ」、「理学療法」のワーキンググループがあり、それぞれのWGには、整形外科の委員も関わっている。それらの方々が、一同に集まって議論する場としてサミットを開催。「Inochi WAKAZOU」で優勝した徳島の高校生にも発表していただく予定。
- ・保険者機能を推進する会報告
各大企業の健康保険組合の有志の会で、60歳の定年を超えて働く高齢労働者の労働災害（骨折・転倒等）を防ぎ、元気に働くという様な環境を整えるという事にも注目している。労働者を管理する側からいうと、骨折を起こしてしまうと、大変な労働災害ということになる。高齢労働者の転倒や骨折をどう防ぐか、ということが今から問題になってきている。健康保険を支払う側としても医療費の増大を招くため、対策が必要であると考えている。その会で、大江先生の講演「高めようロコモリテラシー、現役世代から始めるロコモ予防」を聴講いただいた。

4 外保連関係

4-1. 社保委員会：亀山先生より報告

- ・令和8年度改定に向けて勤務医会から以下の要望案件をアンケートとして外保連へ提出
手術通則14の改正（人工骨頭挿入術（肩）と骨折観血的手術（上腕）の併施）

上腕骨近位端骨折に対して人工骨頭挿入術（肩）を行う場合、上腕骨骨頭を人工肩骨頭に置換し、その周囲を上腕骨の大結節、小結節が付着する腱板で覆い、腱板機能の温存を図りつつ大結節、小結節、上腕骨骨幹部相互の骨癒合を得る手術を追加する。以上の操作は、人工骨頭挿入術（肩）と骨折観血的手術（上腕）を同一術野で行う複数手術に相当するため、この2術式の併施を通則14の追加（複数手術に係る費用の特例）として要望する。

- ・令和8年度改定に向けての医療技術評価提案書作成要項については来年2月の実務委員会で示される予定。
- ・外保連の各委員会で、所属学会が新規技術（手術、処置、検査、等）の試案登録のためのプレゼンテーションを施行
- ・手術実態調査（4年ごとに施行）
内容：麻酔時間、手術時間：
整形外科領域は、2023年のJOANRデータを準用
- ・手術試案医療材料実態調査の依頼（2025/1/10 締め切り）。勤務医会が主学会の手術は神経再生誘導術のみで、医療材料の内容、価格には特に変更がないことを確認
- ・長年勤務医会社保委員および外保連手術委員を務めていただいていた三上容司先生（横浜労災病院）が退任され、新たに竹中信之先生（東北地区・総合南東北病院）が社保委員、兼外保連手術委員として就任

4-2. 外保連／日整会：平泉先生より報告

（一部前回と重複のため省略）

- ・第3回骨粗鬆症関連学会合同会議：10月9日
 - ・骨粗鬆症関連3学会が出席：
 - ・日本骨粗鬆症学会、日本整形外科学会、日本臨床整形外科学会
 - ・令和8年度診療報酬改定に向けた要望を協議
 - ・骨粗鬆症指導管理料（新設要望）は日本骨粗鬆症学会が主学会となった。
- ・モルヒネ髄注ポンプに関する3学会合同WG会議：関連3学会で計5回開催
 - ・厚労省からのガイドライン作成依頼
- ・社保委員会 JOANR 対応 WG
 - ・外保連手術実態調査：外保連がKコードのbrush-upを目的に約4年毎に実施

- ・日整会社保委員会としては、JOANR データを使用して整形外科領域の全 K コードを一括で回析する方針とし関連学会へ通知した（関連学会による独自調査も可とした）。
- ・日整会症例レジストリー委員会と共同して、2023 年度データ 97 万件で回析
- ・日整会理事会（12/19 開催）にて、中島理事長から整形外科全ての K コードを一括回析した結果を日整会から外保連に提出する方針を提起する方針
- ・ステンレス製インプラントの適正使用・安定供給に向けたWG設立
- ・ステンレス製インプラントの利点を厚労省に提示し、償還価格の適正化と安定供給を図ることを目的としてWGを発足する案が、11 月理事会で可決された。

5 内保連関係

石橋先生/山縣先生より報告

- ・「令和 6 年度 整形外科関連学会合同社保委員会会議（内保連関連）」議事録（抜粋）

日本整形外科学会 社会保険等委員会委員長

平泉 裕

- ・日時：令和 6(2024)年 11 月 6 日(水) 19 時～20 時 30 分
- ・場所：Web 開催
- ・出席者（13 名）（敬称略）

(1) 日本整形外科学会

寺門 淳(社会保険等委員会担当理事)

平泉 裕(社会保険等委員会委員長)

五味淵 聡志(社会保険等委員会副委員長・内保連委員)

石橋 英明(社会保険等委員会委員・内保連委員)（欠席）

志波 直人(社会保険等委員会臨時アドバイザー・内保連委員)

(2) 日本臨床整形外科学会

松原 三郎(社保担当副理事長)

丸山 晴久(内保連委員)

(3) 日本運動器科学会

中川 種史(常務理)

(4) 日本骨粗鬆症学会

小川 純人(社保委員長)

萩野 浩(理事長)

(5) 日本腰痛学会

山縣 正庸(内保連委員)

遠藤 健司(社保委員長)

(6) 日整会 骨・軟部腫瘍委員会

松峯 昭彦(担当理事)

森岡 秀夫(骨転移 WG 委員)

- ・令和 8 年度診療報酬改定へ向けた内保連経由の要望項目一覧 **※の主学会は予定**

日本臨床整形外科学会

- ・ロコモ・フレイル指導管理料 未収載
- ・2 次性骨折予防継続管理料：対象疾患の拡大（提案書作成）既収載
- ・再診時他医で撮影した MRI、CT 読影料算定（主学会）（提案書作成）既収載
- ・運動器リハビリ：（I）の点数の適正評価（主学会）（提案書作成）既収載
- ・運動器リハビリ：運動量増加機器加算の拡大（主学会）（提案書作成）既収載
- ・運動器リハビリ：急性増悪の定義の変更（主学会）（提案書作成）既収載

日本運動器科学会

- ・骨粗鬆症指導管理料 未収載
- ・2 次性骨折予防継続管理料 2：算定施設案件の緩和（提案書作成）既収載
- ・骨粗鬆症における骨代謝マーカーの測定要件の見直し（提案書作成）既収載
- ・運動器リハビリ：起算日の変更（主学会）（提案書作成）既収載
- ・運動器リハビリ：早期加算の適応疾患拡大（主学会）（提案書作成）既収載
- ・運動器リハビリ：ロコモ度テストを評価に加える（主学会）（提案書作成）既収載

日本腰痛学会

- ・脊椎術前骨粗鬆症（評価治療）管理料（主学会）（提案書作成）未収載
- ・四肢骨格筋量測定（※主学会）（提案書作成）既収載
- ・運動器慢性難治性疼痛集学的治療（主学会）（提案書作成）未収載
- ・骨粗鬆症指導管理料 未収載

日本骨粗鬆症学会

- ・骨粗鬆症指導管理料（※主学会）（提案書作成）未収載
- ・2 次性骨折予防継続管理料：対象疾患の拡大

(※主学会) 既収載

・2次性骨折予防継続管理料2：算定施設案件の緩和 (※主学会) 既収載

・骨粗鬆症における骨代謝マーカーの測定要件の見直し (※主学会) 既収載

日整会 骨・軟部腫瘍委員会

・がん骨転移指導管理料 (提案書作成) 未収載

日本整形外科学会

・ロコモ・フレイル指導管理料 (主学会) (提案書作成) 未収載

・四肢骨格筋量測定 既収載

・がん骨転移指導管理料 (主学会) 未収載

6 本日開催 幹事・常任幹事会、第79回教育研修会事務局/村松先生より報告

・日時：2024年12月14日(土曜日)

・会場：旭化成ファーマ (株) 医薬東京支店 会議室

14:30～15:30 幹事・常任幹事会

15:40～15:50 製品情報提供

16:00～18:00 第79回教育研修会

(18:00～20:00 情報交換会)

演題1

演者：松坂 俊先生 (飯塚病院 連携医療・緩和医療科)

演題名：「壊死性軟部組織感染症を見逃さないために知っておくべきこと」～症例から学ぶ壊死性軟部組織感染症のA to Z～

座長：戸野塚 久紘先生 (神奈川リハビリテーション病院 整形外科部長)

必須分野：[6] リウマチ性疾患・感染症

演題2

演者：田中 伸哉先生 (東都春日部病院 整形外科 診療部長)

演題名：「40年にわたる骨粗鬆症治療の組織学的アルゴリズム」

座長：吉田 英彰先生 (公立福生病院 院長)

必須単位：[4] 代謝整骨疾患 (骨粗鬆得症を含む)

研修単位取得受付では2次元コードリーダーを使用

7 次回 常任幹事会

事務局より報告

・日時：2025年3月17日 (月曜日) 19:00～20:00

・形式：WEB (Zoom) 開催

8 次々回 幹事・常任幹事会、教育研修会、総会

事務局/村松先生より報告

・日時：2025年6月21日 (土)

・会場：AP東京八重洲通り

14:30～15:30 幹事・常任幹事会

15:30～15:50 総会

15:50～16:00 製品情報提供

16:00～18:00 第80回教育研修会

(18:00～20:00 情報交換会)

演題1

演者：古島 弘三先生 (慶友整形外科病院 副院長)

演題名：「胸郭出口症候群の診断治療、内視鏡手術 (仮)」

演題2

演者：相馬 考博先生 (千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部特任教授)

演題名：「医療安全関係や病院管理でのリーダーシップ論について (仮)」

9 新常任幹事ご挨拶

事務局より報告

→欠席のため、ご挨拶は無し

10 その他

・吉田英彰先生 (日本整形外科勤務医会事務局) より第99回日整会 シンポジウム提案のお願い

以上

[文責：事務局 新井嘉容]

令和6年度 関東地区整形外科

勤務医会 幹事・常任幹事会

議事録

日時：2025年3月17日（月曜日）19:00～20:00

方法：WEB（Zoom）開催

出席者：

阿江 啓介、浅野 聡、新井 嘉容、石橋 英明、
伊室 貴、伊藤 淳二、上杉 雅文、江畑 功、
大江 隆史、大野 隆一、鎌田 修博、亀山 真、
児玉 隆夫、小宮 浩一郎、坂根 正孝、
進藤 重雄、戸野塚 久紘、長瀬 寅、
新関 祐美、萩原 敬一、林 淳慈、原 慶宏、
原田 繁、東川 晶郎、平泉 裕、福田 健太郎、
別府 保男、堀内 行雄、眞塩 清、松原 正明、
三上 容司、村松 俊樹、山縣 正庸、
吉田 英彰、吉田 宏樹、若林 良明

(36名：五十音順、敬称略)

【審議事項】

- 1 関東地区整形外科勤務医会(第80回教育研修会)の
座長
研修委員会より推薦
・演題1 座長：岡崎 真人 先生（河北総合病院 整形外科診療部長）
・演題2 座長：若林 良明 先生（横浜市立みなと赤十字病院 副院長）
→参加者へ意見の有無を確認の上、全会一致で承認を得た
- 2 次々々回 幹事・常任幹事会、教育研修会（第81回）の日程、場所に関して
・日程候補日：2025年12月20日（土）14:30～18:00
・会場：旭化成ファーマ（株）医薬東京支店 会議室
・演者（予定）：
・宮越 尚久先生（秋田大学整形外科学教室教授）
・吉井 俊貴先生（東京科学大学整形外科学教室教授）
→参加者へ意見の有無を確認の上、全会一致で承認を得た
- 3 次々々々回 常任幹事会の日程

・日程候補日：2026年3月16日（月曜日）

19:00～20:00

・形式：WEB（Zoom）開催

→参加者へ意見の有無を確認の上、全会一致で承認を得た

4 新常任幹事の推薦

・候補者：萩野 哲男先生（国立病院機構甲府病院 院長）

推薦者：吉田 英彰先生（日本整形外科勤務医会事務局、公立福生病院 院長）

→参加者へ意見の有無を確認の上、全会一致で承認を得た

5 新幹事の推薦；なし

【報告事項】

1 山梨県整形外科勤務医会会長交代の報告

事務局より報告

- ・現会長中島育昌先生より勤務医会退会のご連絡
- ・新会長：萩野 哲男先生（国立病院機構甲府病院 院長）

2 理事会報告

大江先生より報告

- ・令和6年度奨励賞選考結果
- ・厚労省の担当官宛の日整会理事長名「がん骨転移指導管理料」の要望書への記名について承諾
- ・会告等及び研修会情報の日整会誌及びMED PORTALへの掲載を令和7年3月の第98号第3巻までで中止する会告案について承諾
- ・診療ガイドライン策定委員会から構造化抄録の作成の可否について検討依頼があり、構造化抄録の作成は行わないことを承諾
- ・除名処分候補者3名の手続きを承認
- ・「整形外科医師の労働時間管理に対する現状と対策」アンケートの実施
- ・学術集会演題応募における倫理的手続きに関する指針改定の件について第40回日整会基礎学術集会から運用
- ・100年のあゆみ、若手整形外科医への意識調査、ビデオライブラリー、全国一斉市民公開講座及び100周年記念式典の進捗状況について報告
- ・令和6年度啓発広告についてメディカルノート及び朝日新聞を採用
- ・2025年定時社員総会で定款の改定並びに外部理事及び外部監事の人選することが報告

- ・脊椎内視鏡下手術・技術認定医の更新申請時から手術症例動画に「腰部脊 柱管狭窄症」を追加
- ・オンデマンドでの単位取得時の「一時停止 30 分以内」の制限緩和
- ・再生医学会との共同研究にかかる覚書き (MOU) の締結を承諾
- ・『整形外科領域における組織移植の現状』、『整形外科領域における再生医療実施の現状』の 2020～2024 年分の調査実施について理事会に諮る。調査の実施を承諾
- ・会員名簿の冊子体を廃止しシステム化を承諾

2 ホームページ・会報

伊室先生より報告

- ・HP を更新した

3 ロコモ チャレンジ！推進協議会の活動報告

大江先生より報告

- ・ロコモサミット 2025 進捗報告
- ・ロコモ認知度調査について
 - ・日整会より委託されたので、3 月末に完了するよう進める
 - ・「運動器」「や「ロコモ」の認知状況、ロコチェックなど、継続的に聴取している基本調査項目以外に、学会が打ち出しているテーマに沿って、新たな設問を 2～3 問追加する予定。昨年度は「フレイル」「骨粗鬆症」関連の質問を入れた
- ・協議会事務局より、大江先生監修のもと、健康保険組合連合会と制作したロコモ啓発動画の完成版を紹介した

4 外保連関係

亀山先生より報告

- ・関東整形外科勤務医会社保委員会報告
 - ・令和 8 年度改定に向けて勤務医会からの要望案件
 - 手術通則 14 の改正 (人工骨頭挿入術(肩)と骨折観血的手術(上腕)の併施)
 - ・令和 8 年度改定に向けての医療技術評価提案書作成要項については 2 月 27 日の実務委員会 で示された。
 - ・令和 8 年度改定に向けての医療技術評価提案書の締切は 3/31 より 5/12 に延期
 - ・手術実態調査 (4 年ごとに施行)
 - 内容：麻酔時間、手術時間について

整形外科領域は、2023 年の JOANR データを準用 (97 万件)

→日整会社保委員会が日整会症例レジストリー委員会と共同して JOANR データを一括で回析し外保連へ提出

→1 月 17 日締め切り

→データ利用申請は、日整会社保委員会へ申し出ること

→主学会の了解が必要

- ・整形外科領域の K コード精緻化・合理化
 - 複数部位に対し同じ K コードが振り分けられ、医療資源の投入量が異なるにも関わらず同じ点数
 - 関連学会の協力の下、K コード見直し作業 (前回改定での導入は見送り)
 - 令和 8 年度改定での導入を目指す

平泉先生より追加報告

- ・大腿骨近位部骨折の受傷後 48 時間→入院後 48 時間に変更要望
- ・神経ブロックに関する調査
- ・DPC 病院での骨形成促進因子薬に関するアンケート
- ・インプラントの見直し：チタン製からステンレス製へ

5 内保連関係

石橋先生より報告

- ・令和 8 年度診療報酬改定スケジュール

令和6年(2024年)				令和7年(2025年)			
10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
提案書内閣府 ※10月21日 提案書内閣府受付開始	診療報酬改定委員会開催	提案書受付 ※2月下旬 提案書受付開始	内閣府ヒアリング	提案書提出 ※5月中旬 提案書提出期限	厚労省ヒアリング	厚労省ヒアリング	厚労省ヒアリング
※12月中旬以降 ※12月5日 意向調査結果報告				※12月中旬以降 ※12月5日 意向調査結果報告			
※12月中旬以降 ※12月5日 意向調査結果報告				※12月中旬以降 ※12月5日 意向調査結果報告			

- ・12 月初旬 提案意向調査
 - ・ロコモ・フレイル指導管理料
 - ・がん骨転移指導管理料
 - ・四肢骨格筋量測定 (四肢・体幹の筋量、脂肪量)
- ・1 月 9 日 第 1 回内保連リハビリテーション関連委員会
- ・2 月 12 日 第 2 回内保連リハビリテーション関連委員会
- ・ロコモ・フレイル指導管理料
 - フレイルの大きな要因であるロコモの重症化予防・改善のために、運動指導、転倒予防、栄養指導、日常生活指導を、医師、看護師、理学療法士などが連携をして個別に行う。対象疾患・対象患者は運動器疾患患者のうち、ロコモ度 2 以上またはサルコペニ

アと判定される者とする。3か月に1回、250点から500点程度で検討中。

共同提案学会：日本臨床整形外科学会、日本運動器学会、日本腰痛学会、日本病態栄養学会、日本老年医学会、日本サルコペニア・フレイル学会、日本骨粗鬆症学会（調整中）

・がん骨転移指導管理料

がん骨転移患者に適切な医療を提供する目的で、整形外科、腫瘍内科、放射線科、リハビリテーション科、原発診療科、緩和ケア等の医師および看護師、薬剤師、理学療法士等の多職種で診断・治療方針を検討する骨転移カンファレンスを開催し、その結果を文書等により患者に提供する。

・四肢骨格筋量測定

DXA法またはバイオインピーダンス法により四肢除脂肪量を測定した際に算定できる。バイオインピーダンス法による体液量測定（体組成計測）で四肢の骨格筋量を測定する。

*内保連リハビリテーション委員会での調整で、今回は日本老年医学会が主学会で、日本サルコペニア・フレイル学会、日整会が共同提案学会となった。

・4月28日 提案書提出締め切り

6 次回6月の幹事・常任幹事会、総会、教育研修会（第80回教育研修会）

事務局/村松先生より報告

・日時：2025年6月21日（土曜日）

・会場：AP東京八重洲通り

14:30～15:30 幹事・常任幹事会

15:30～15:50 総会

15:50～16:00 製品情報提供

16:00～18:00 第80回教育研修会

（18:00～20:00 情報交換会）

演題1

演者：古島 弘三先生（慶友整形外科病院 副院長
慶友胸郭出口症候群センター長）

演題名：「胸郭出口症候群の診断治療、1,000例の内
視鏡手術からわかったこと」

単位：必須分野：[8] 神経・筋疾患（末梢神経麻を含む）
[9] 肩甲帯・肩・肘関節疾患
[Re] 運動器リハビリテーション医単位

座長：→審議事項2

演題2

演者：相馬 孝博先生（千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部 特任教授）

演題名：「医療安全とリーダーシップ」

単位：必須分野；[14-5] その他

座長：→審議事項2

7 次々回 常任幹事会

事務局より報告

・日時：2025年10月20日（月曜日）19:00～20:00

・形式：WEB（Zoom）開催

8 新常任幹事ご挨拶

事務局より報告

2024年6月承認

・伊藤 淳二先生（栃木県医師会塩原温泉病院 副院長）

・小宮 浩一郎先生（川崎市立川崎病院 整形外科部長）

→ご挨拶をいただいた

2024年10月承認

・水野 広一先生（総合病院土浦協同病院 整形外科部長）

→次回、ご挨拶をいただくこととした

9 第68回日本手外科学会

・2025年4月10,11日

・三上先生会長のもと横浜で開催

以上

[文責：事務局 新井嘉容]

事務局から

第 98 回日本整形外科学会が東京国際フォーラムで開催されましたが、東京での開催は 15 年ぶりとのことでした。

第 83 回の日整会は東京医科歯科大学の四宮 謙一会長により開催されました。そして、翌年の 2011 年の第 84 回日整会は慶應義塾大学の戸山 芳昭会長により開催予定でしたが東日本大震災の影響で現地開催は中止となり、また 2020 年にもコロナ禍により現地開催を断念せざるを得なかった記憶がよみがえります。

ふと以前のことを考えると、学会参加時には分厚い抄録集を持参し、ランチョンセミナーの前は通路で長蛇の列を作っておりましたが、最近ではスマートフォンにダウンロードしたアプリによりスケジュールを確認ながら抄録を読み、教育研修講演への参加登録も 2 次元コードで行うなど、学会参加がずいぶん身軽になった気がします。

関東勤務医会も年間 4 回の会議の内、3 月と 10 月の幹事会は Zoom での開催、前回の教育研修会から 2 次元コードにより参加登録を行うなど進化を遂げていることを実感します。

(文責：伊室 貴)

事務局からのお願い

勤務先や住所に変更が発生した際には、事務局へのご連絡をお願いいたします。

関東勤務医会では、正確な名簿管理やホームページの作成および維持のためにも、みなさまのご協力をお願いいたします。

第 80 回 日整会認定教育研修会

関東地区整形外科勤務医会では、下記の通り幹事会、総会および教育研修会を開催いたします。専門医以外の先生方もお誘いの上、ご参加下さい。

記

日 時：令和 7 年 6 月 21 日（土曜日）

会 場：AP 東京八重洲 11F（都合により階が変更になることがあります）

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-10-7

TEL 03-6228-8109

幹事・常任幹事会：14:30～15:30

総会：15:30～15:50

教育情報提供：15:50～16:00 帝國製薬（株）製品情報室

教育研修会：16:00～18:00

【演題Ⅰ】

座長：河北総合病院 整形外科診療部長

岡崎 真人 先生

演題名：「胸郭出口症候群の診断治療、1,000 例の内視鏡手術からわかったこと」

演者：慶友整形外科病院 副院長 慶友胸郭出口症候群センター長

古島 弘三 先生

必須分野番号 [8], [9], [Re]

【演題Ⅱ】

座長：横浜市立みなと赤十字病院 副院長

若林 良明 先生

演題名：「医療安全とリーダーシップ」

演者：千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部 特任教授

相馬 孝博 先生

必須分野番号 [14-5]

会場費：¥1000（参加者一律）

受講料：1 題 ¥1000（単位取得者のみ）

事前に JOINTS のアプリをダウンロード後、登録をお願いいたします。

当日の教育研修申請時には、2 次元コード（QR コード）をご呈示ください。

懇親会：講演会終了後に同会場で情報交換会を用意しております

参加事前申込先：新井 嘉容 済生会川口総合病院 整形外科

〒332-8558 埼玉県川口市西川口 5-11-5

TEL 0570-08-1551

共 催：関東地区整形外科勤務医会
帝國製薬株式会社

関東地区整形外科勤務医会 入会申込書

令和 年 月 日

フリガナ _____

御氏名 _____

生年月日 昭和・平成 年 月 日

現住所 〒 _____

TEL _____

勤務先名称 _____

勤務先住所 〒 _____

TEL _____

メールアドレス _____

役職名 _____

出身大学 _____

卒業年次 昭和・平成・令和 年

出身教室 _____

入会申し込み送り先

〒332-8558 埼玉県川口市西川口 5-11-5

埼玉県済生会川口総合病院 整形外科

関東地区整形外科勤務医会事務局代表 新井 嘉容

TEL 0570-08-1551

FAX 048-256-5703

E-Mail kanto.orth@gmail.com



Persona® Knee System

No Compromise

様々な患者さんに適合するインプラントを目指して

Persona®人工膝関節システムは、術後の機能低下をより改善させるために、生体膝に基づいたアナトミカル形状にデザインされています。

- ・AP長 2mm間隔の大腿骨コンポーネント、厚み 1mm間隔のサーフェイス
- ・スタンダード及びナローサイズを含めた 21種類の大腿骨コンポーネント
- ・高い骨被覆率のための内外側非対称脛骨コンポーネント



販売名：Persona PS セメントシステム/承認番号：225-0002900384000 / 高度管理医療機器/全人工関節部/人工膝関節 K2-2、K2-6、K2-11
販売名：Persona CR セメントシステム/承認番号：225-0002900385000 / 高度管理医療機器/全人工関節部/人工膝関節 K2-2、K2-6、K2-11
販売名：Persona Vivact CR サーフェイス/承認番号：226006200189000 / 高度管理医療機器/人工膝関節脛骨コンポーネント/人工膝関節 K2-12

【禁忌・禁止】、【使用目的又は効果】、【使用上の注意】、及び不具合・有害事象等の情報については、本製品の添付文書をご参照いただくか、弊社営業担当までご連絡ください。製品のさらなる最新の情報は、<https://www.zimmerbiomet.com/ja>にてご確認ください。



ジンマー バイオメット <https://www.zimmerbiomet.com/ja>

〒108-0073 東京都港区三田三丁目5番19号 住友不動産東京三田ガーデンタワー 12 階
Tel. 03-4331-8600 (代)

かけがえない命の手助け…



より良き健康と医療を目指して

サンメディックス株式会社

本社 〒104-6136

東京都中央区築港1-8-11 築港トリトンスクエア38階
TEL 03-5144-0855(代) FAX 03-5144-0850

□東京第一支店	〒179-0075	東京都練馬区高松9-35-15	TEL:03-5923-6235(代)	FAX:03-5363-3057	
□東京第二支店	〒130-0014	東京都墨田区亀沢4-17-12	TEL:03-5619-4551(代)	FAX:03-5659-0016	
□東京第三支店	〒168-0063	東京都杉並区和泉1-22-19	TEL:03-6680-0460(代)	FAX:03-6660-0538	
□多摩支店	〒187-0004	東京都小平市天神町1-9-27	TEL:042-348-5011(代)	FAX:042-348-5015	
□千葉支店	〒261-0023	千葉県千葉市美浜区中瀬1-3	TEL:043-296-1063(代)	FAX:043-296-1067	
□川崎支店	〒216-0005	神奈川県川崎市宮区土蔵1-21-5	TEL:044-870-6377(代)	FAX:044-866-3813	
□横浜支店	〒240-0005	神奈川県横浜市保土ヶ谷区戸部134	TEL:045-349-7260(代)	FAX:045-349-7261	
□相模原支店	〒252-0334	神奈川県相模原市南区若松1-1-3	TEL:042-767-3771(代)	FAX:042-767-3773	
□厚木支店	〒243-0016	神奈川県厚木市田村10-12	TEL:046-296-2822(代)	FAX:046-222-1563	
□宇都宮支店	〒320-0074	栃木県宇都宮市緑台町389-1	TEL:028-616-1580(代)	FAX:028-623-7350	
□とちぎ支店	〒329-4404	栃木県とちぎ市大平町富田150番3	TEL:0282-45-3701(代)	FAX:0282-44-0691	
□医療機器センター	〒144-0042	東京都品川区東品川1-11 品川C/ゲート内	TEL:03-5735-7111(代)	FAX:03-3743-8811	
□水戸営業所	029-305-6125(代)	□埼玉営業所	048-840-6621(代)	□長野営業所	026-229-9030(代)
□東京営業所	029-650-5185(代)	□埼玉営業所	0493-21-7319(代)	□栃木営業所	0263-64-1125(代)
□新潟営業所	027-280-4433(代)	□山梨営業所	055-242-0301(代)	□茨城営業所	052-218-2735(代)



URL : <https://www.sunmedix.co.jp>

KMP⁺

カーボンフレーム

一般の手術台に接続が出来る、
Cアーム等のワーキングスペースを
最大限に確保



▲インKMP+製品詳細サイト



ISO MEDICAL SYSTEMS

株式会社 **イソメディカルシステムズ**

本社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-2-8

問合せ先 〒277-0863 千葉県柏市豊四季495-14

TEL 04(7141)4021 FAX 04(7141)4022

URL: <https://www.isomed.co.jp/>



stryker

Advanced Digital Healthcare

Innovation that empowers outcomes.™



Mako SmartRobotics™

人工関節置換術用ロボティックアーム手術支援システム

Stryker NAV3i

ストライカーNAV3iプラットフォーム

医療機器承認番号	販売名
229003ZX00325000	Makoシステム
229003ZX00008000	ストライカーNAV3i プラットフォーム

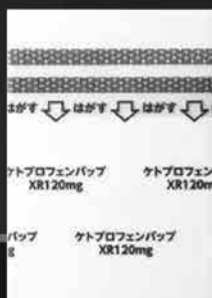
ストライカー製品についてご不明な点は、弊社までお問い合わせください。
※マークの付いた製品名は、ストライカーグループ各社の登録商標です。

Literature Number: SJ09-004L
Copyright ©2024 Stryker

製造販売業者
日本ストライカー株式会社
P.03 6894 0000

www.stryker.com/jp

Teikoku



経皮鎮痛消炎剤

薬効基準収載

ケトプロフェンパップXR120mg「テイコク」

KETOPROFEN Paps XR120mg 「TEIKOKU」 ケトプロフェンパップ剤



経皮鎮痛消炎剤

薬効基準収載

ケトプロフェンテープS20mg「テイコク」 40mg「テイコク」

KETOPROFEN Tapes S20mg・40mg「TEIKOKU」 ケトプロフェンテープ剤

製造販売元

帝國製薬株式会社
香川県東かがわ市三本松567番地

〈製品情報お問い合わせ先〉

医薬営業部 製品情報室

TEL: 0120-189-567

受付時間/月～金 9:00～17:30(祝日、当社休日を除く)

https://www.teikoku.co.jp/med_database/

●効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む
注意事項等情報等については、電子添文を
ご参照ください。

2024.5作成